令和７（２０２５）年３月１４日版

「旧隈庄尋常小学校に投下された陸軍“通信筒”」について　その４

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク　髙谷和生

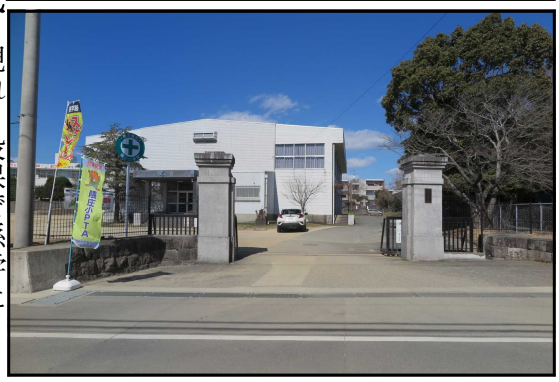
１　事柄の来歴

（１）熊本市立隈庄小学校創立１５０周年記念事業に伴う戦時資料調査・記念誌掲載

□**依頼者**　隈庄小学校150周年記念実行委員長　岩村　匡　氏
※令和７年１月３１日依頼

□**依頼内容**
「戦時中、本町出身の伊津野重雄さんが、隈庄校運動場に上空の飛行機から“陸軍通信筒”を投下された。その中には“当校訓導の髙木正明氏あてのメッセージが同封されていた」
「令和７年１月に隈庄小学校創立150周年記念事業」の打合せ会議の折に、本資料の存在を初めて知った」
「記念誌作成の一環として、本資料の歴史資料の価値を調べ、本資料を地域の皆さま方に広く知っていただきたい」との岩村氏からの依頼

□**所蔵者**は、**故髙木正明氏（当時隈庄国民学校の教員・退職時は下益城城南中学校長）ご遺族の長男「髙木正嗣（まさつぐ）氏・８５歳：八代市三江湖町在住」が保管**



□隈庄町のご自宅は熊本地震による全壊のため、現在は八代市内の長男様の正司様敷地内に転居されている。
□**当時から自宅は旧隈庄町**で、自宅「居間の上ヱ段納戸に、他の貴重品と一緒に、新聞紙に撒かれ保管されていた、平成２８年熊本地震で本宅損壊での片付けの折に確認された」。また、正明様の孫さんには、戦時中の出来事として、「通信筒が学校に落とされたとの由来等」をお話しされていたという。　　**※正嗣様の奥様・裕子様の証言**
□**通信筒投下の詳細時期は不明**
□隈庄校は、戦時中は**隈庄国民学校（1941年改称）である。**前身は明治41（1908）年**隈庄尋常小学校。**現在は、**熊本市立隈庄小学校**（〒861-4203　熊本市南区城南町隈庄270）となる。
□正門は当時のままで、**校舎配置及び運動場規模**も当時とほぼ同様である。

上：旧隈庄尋常小学校校舎・運動場の様子
撮影時期は不明
創立１５０周年記念行事ＨＰより
下：現在の隈庄小学校　正門は当時のまま

（２）伊津野重男（雄）様の家族歴・軍歴　等

□**伊津野和也　様**　　※重男（雄）様は叔父にあたり、父親の武男様は、伊豆野家二男
有限会社　伊津野公益社・火の君町民斎場
熊本市南区城南町板野38
□**伊津野重男（雄）様は、戸籍上は「重男」であり、通名として「重雄」を使用していた。**
□**重雄さん生年月日：大正６（1917）年６月３日生まれ**
□**隈庄尋常小学校卒業年・お写真**：学校保管の学籍簿等で確認中
□当時のご自宅・家族構成と人柄　等
兄二人は何れも軍人で、共に戦死。戸籍上は重男（雄）様は長男となり、次男武男様、妹様の兄妹となる。当時の自宅は、「隈庄校」と「雲晴寺」に挟まれた場所であった。ご自宅家業は、〇〇である。
□**戦没　没日：昭和13（1938）年６月21日　没年齢は21歳**
※昭和１３年は日中戦争での「徐州・武漢作戦」展開中。
昭和拾参年六月弐拾壱日　午前九時四拾壱分　北支邦(ママ･那か)河南省開封飛行場　西方約一粁ニ於テ戦死
濱松塚田部隊長　塚田理喜智■報告(印)
仝年七月弐拾弐日受附(印)

故髙木正明氏
（下益城城南中学校長時代）

□**軍歴（入隊・所属部隊等）**は、県社会福祉課恩給係確認中
なお、陸軍浜松基地は「爆撃機隊」配備の基地
□**「伊津野重男」**及び**「重雄」銘**は、**「所沢陸軍飛行学校・少年飛行兵操縦科第二期生」**に記載される。第二期生は、基本として「昭和10（1935）年16～18歳で入校、修業二カ年で、

飛行種別の分科を経たのち伍長任官で、昭和12（1937）年卒業」コース
※出典『陸軍少年飛行兵史』『同　補遺編』
□ご両親、ご家族状況、幼年期の様子、軍隊時代の写真等は、ご親族に確認中。
□隈庄飛行場は昭和14年より造成、大刀洗陸軍飛行学校隈庄校分教所は昭和16年に開所

2　通信筒及び手紙

□**陸軍通信筒（つううしんとう）**とは、**多くは戦地において、敵情を偵察するなどして内容を前線部隊に知らせる等のために、通信文書を入れて飛行機上などから地上に投下される円筒物である。**
□ウィキペディアでは「大日本帝国軍の通信筒は、長さ20cm、中径3-4cmの革または厚紙製の正円筒で、重錘を装し、一端に紅白色の長い布を付したものであった。その受領を確実ならしめるために、飛行機は地上軍隊の上空に至ると、煙火信号で、隊号布板を布置することを要求し、地上で布板が布置されるのを見て、ついで通信筒が投下される。地上軍隊は布板信号その他の臨機応変の措置で受領した意を飛行機に通じる。飛行機は、通信筒の投下のために、敵情、地形などによって一定しがたいが、投下の確実を期して高度200m-300mから投下するのを可とする」とある。
□**隈庄通信筒**
規格：全長21cm × 胴部径５cm × 蓋径5.5cm。重量：89㌘
材質：厚紙に紺色防水紙を貼付け
色調：紺色
構造：正円筒に円筒蓋で閉封。蓋部には紐を通し、簡易な封としている。底面は表面防水紙が剥げ、一部はへこみ・破損している。経年使用が伺える。
附帯赤リボン　全長65cm × 幅6.0cm、材質は木綿生地
□**筒表面には符合が貼られ**文面には、取得者は学校届けの願い文が記載される。
活字タイプで**「此ノ通信筒拾得□ハ直□□□□学校ニ届出相成度」**の文
□**現存する「手紙」は１枚のみ**　陸軍用紙ではなく、**一般便せんに一枚。万年筆書き**
「先生　御元気ですか　今日私は鹿児島へゆく途中一寸故郷の上へとんで参りました。
空から始(ママ)めて見る故郷は実に美しいです。　特に隈庄校はすばらしいものです。
隈庄校の皆様によろしく。　伊津野重雄　高木正明様」
□**両親・家族宛等の同封手紙**が無いか、確認中

3　小　結

□**本隈庄通信筒は、熊本県内の戦時資料・品としては、初確認の陸軍資料**である。また、同封された手紙も確認でき、投下者の当時心情を伺い知る貴重な戦時資料である。

□**隈庄通信筒及び手紙は、投下のため事前に準備**されたものである。隈庄町上空の飛行に際し、恩師や隈庄校等へのメッセージ・思いを綴ったものである。

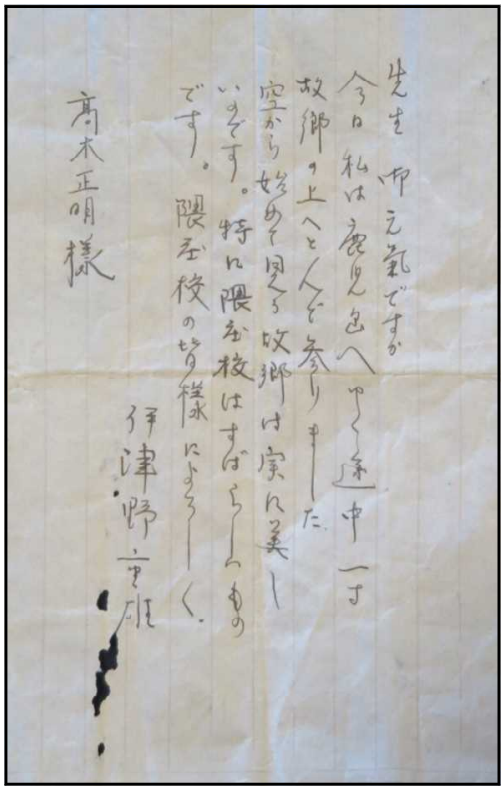
□現状で想定される事は**「所属する部隊が、上海まで渡洋するために、鹿児島まで移動する中で、事前に準備した通信筒と手紙（恩師・家族宛　他）を用意して、上空の航空機より隈庄校グラウンドに投下したもの」**ではなかろうか。

□なお、**通信筒と手紙のセットの同様資料は、1945年３月26日沖縄戦**で沖縄県石垣島から特攻出撃し、実家へ通信筒と手紙を投下した**「第十七飛行隊長の伊舎堂用久（いしゃどうようきゅう）中佐」事例**が知られている。
①　－ 未来に残す 戦争の記憶 － Yahoo! JAPAN
死の間際も家族に会わず　沖縄戦、ふるさと石垣島から最初に出撃した特攻隊長
https://wararchive.yahoo.co.jp/wararchive/kyt1.html
②「伊舎堂中佐の遺品を確認　永久保存へ学芸員ら助言　知覧特攻平和会館」八重山日報
https://yaeyama-nippo.co.jp/archives/7120
□**伊舎堂通信筒は「全長：19cm、蓋径：５cm、紅白紐：85cm」、筒材質は「布製」**である。

□なお、**九州内での「通信筒は本事例のみ」**である。**知覧特攻平和会館・大刀洗平和記念館ともに、同様資料は所蔵していない。**
※２／５知覧特攻平和会館八巻学芸員、大刀洗平和記念館梅津・福岡学芸員に確認済み

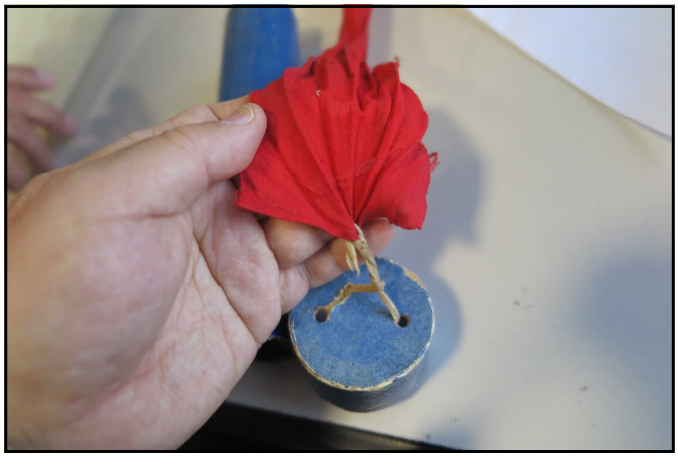
□今後の調査・公開等
○伊津野重男（雄）さん家族様子と軍歴等に関わるご遺族、学校等での調査
○通信筒に関わる投下時状況の周辺調査
○全国の「通信筒・手紙セット」の事例調査
○玉名市立歴史博物館「戦後80年くまもとの戦争遺産」展（令和７年７月12日～９月21日予定）**で、「語り継ぐ戦争と記憶」コーナー**での**「隈庄通信筒・手紙」の紹介**
○くまもと南部広域病院地域文化事業「戦後80年　隈庄飛行場と三船敏郎」（令和７年10月５日予定）での「通信筒・手紙　他」の公開・解説の予定

隈庄通信筒に入れられていた高木正明氏宛の手紙
高木正嗣氏所蔵



先生 御元気ですか
今日私は鹿児島へ疎開途中一寸
故郷の上へと人を参りました
空から始めて見る故郷は実に美し
いものです。特に隈庄校はすばらしい
です。隈庄校の皆様によろしく。
伊津野一郎
高木正明様

旧隈庄国民学校校に投下された「通信筒と手紙」
高木正嗣氏所蔵



熊日新聞　令和7年3月14日
「恩師への手紙　空から届く
遺族　平和に役立てて
軍操縦士　故郷・城南町
の小学校投下」報道

令和7年(2025年)3月14日 金曜日　熊本日日新聞

恩師への手紙 空から届く

軍操縦士 故郷・城南町の小学校に投下

遺族「平和に役立てて」

「先生お元気ですか。空から初めて見る故郷は実に美しいのです」。日中戦争時、熊本市南区城南町の隈庄尋常小学校（現隈庄小）に、空から紙製の筒が落とされた。中に入っていたのは、操縦士が機上から投下したとみられる恩師宛ての手紙。この手紙を保管していた恩師の家族と、戦地に散った若い差出人の遺族が2月下旬、城南町で初めて面会した。戦後80年を迎える今年、遺族らは「平和学習に役立ててほしい」と願う。

高谷和生さん（右手前）から通信筒について説明を聞く伊津野和也さん（左）、高木正嗣さん（左から3人目）＝2月24日、熊本市南区城南町

「故郷は実に美しく すばらしいもの」

手紙を書いたのは、城南町出身の軍人、故伊津野重明さんに宛てたものだった。

手紙は高木さんの死後、長男の正嗣さん（85）＝八代市＝が保管していたが、かつて住んでいた城南町の自宅は2016年の熊本地震で全壊。家の後片付けをする際に、妻の祐子さん（77）が見つけ出した。

今年1月、祐子さんが手紙と筒の存在を知人に話したところ、隈庄小学校150周年企画実行委員長で、記念誌を作っていた同町の岩村匡さん（60）の耳に入った。現物を確認した岩村さんが調べたところ、重男さんのおいに当たる和也さん（66）が町内に健在であることを突き止めた。

手紙と筒は、「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」代表の高谷和生さん（70）＝玉名市＝が鑑定した。高谷さんによると、筒は「陸軍通信筒」と呼ばれ、戦地で偵察した内容を、飛行機から味方に知らせる目的などに使われた。国内に現存する例は少なく、所蔵する資料館は九州にはないという。

高木さん夫妻や伊津野和也さん、岩村さんらは2月24日、城南町で面会。高谷さんから、戦時中の城南町の様子や、通信筒について説明を受けた。

和也さんや戸籍によると、重男さんは「パイロット」として、1938年6月に中国で戦死した。21歳の若さだった。和也さんは「祖父や父は、伯父の話を一切しなかった。伯父はどのような気持ちで、この手紙を古里に落としたのだろうか。これを機に伯父のことを知りたい」と語った。

手紙を投下した日など、分からないことはまだ多い。「重男さんの軍歴が確認できれば、分かることが増える」と高谷さん。「こうした貴重な資料を通して、一地元にこのような先人がいたことを広く知ってもらい、平和の大切さを考えたい」と話している。

隈庄小150周年企画実行委は、通信筒や手紙の内容も紹介する記念誌を、3千部発行する予定。（九重陽平）

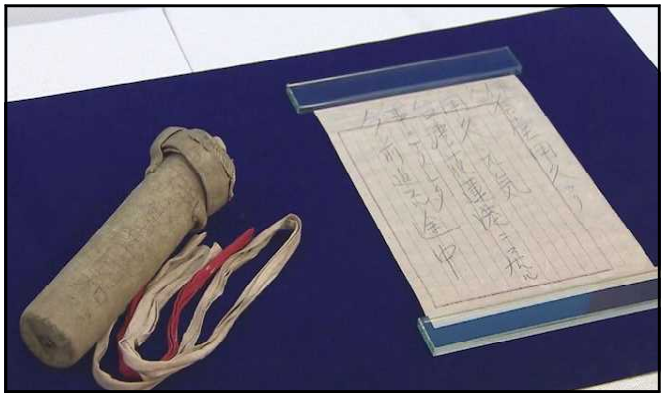
伊津野重男さんが投下した手紙と通信筒＝2月24日、熊本市南区城南町

高木正明様

先生御元気ですか
今日私は鹿児島へゆく途中一寸故郷の上へとんで参りました
空から始めて見る故郷は実に美しいのです。特に隈庄校はすばらしいものです。隈庄校の皆様によろしく

伊津野重雄

くまもと戦後80年



上：伊舎堂用久中佐事例の投下通信筒
　　知覧特攻平和会館八巻聡氏提供
右：「未来に残す 戦争の記憶
　　－ Yahoo! JAPAN」より

連　絡　先
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク　代表　髙谷和生
□〒８６５－００６１　熊本県玉名市立願寺１２６－５
□個人携帯　　０９０－１５１３－５５２８
□Ｅメール　　takayanagi912@yahoo.co.jp
□ＨＰ　ＵＲＬ　http://www.kumamoto-senseki.net/